

大槌の「人」の魅力を発信する情報誌 ひよっこりひょうたん塾通信

Tatsutto vol.2



撮影場所 金沢

発行日 2014年11月15日

発行 ひよっこりひょうたん島プロジェクト実行委員会、東京都、東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利活動法人いわて連携復興センター

web サイトでも、通信が見られます。

HP <http://www.hyotanjuku.jp/>

FB <https://www.facebook.com/hyoutanjuku>

E-mail hyotanjuku@gmail.com



ここでの生活を楽しむのは自分次第

株式会社 Domus A・I 設計事務所 岩間妙子さん (36歳)



「場所」ではなく、「人」

岩間さんは、建物の設計、インテリアデザイン、施設計画のコンサルティングなどを手掛けています。職場の設計事務所は復興工事が行われている沢山地区にあります。外観は木製の大きな箱のような建物にウッドデッキが特徴です。そこが、岩間さんの職場です。

すべては好きから

現在は、復興に関わる仕事が多く、建築現場にもよく出かけます。「今は色々な人がいて、色々な事情がある中で、大変だけれど、少しずつ調整しながら、仕事をしています。そして、やっぱり、人。震災後、人との関わりが増えて、良くも悪くも、色々なことが見えて、感じる。たつた何人かに会っても、世界が広がることを感じる。サラリーマンからの今、本当に大きく変わったのは、人との関わり。今の状況は、想像できなかつたこと。人と会うことで、拓ける。場所ではない。どこにいても、「人」で変わる。震災後、たくさんの方が大槌に来てくれて、つながった。狭いか広いかは、

自分の考え方で、変わる」元々、都会よりも田舎が好きだと話す岩間さん。たとえ田舎だろうと、場所に関係なく、大槌でも仕事ができるから、ここにしていると力強く話してくれました。

自然が好き。物を作るのが好き。空間が好き。岩間さんから「好き」が、たくさん溢れています。「全部が、『好き』から始まっている。好きな仕事、好きなことが、大槌でできるのが嬉しい。小さい頃から、物を作るのが好きで、おもちゃを作ったりもしていた。物ができていくのが、好き」物を作ることには、日本のおもてなしと少し似ていて、時は移ろい、その一瞬は、その時にしか会うことできない・・・それは日本独特の美の文化で、海外の方が、日本の文化を好きになるのは、その瞬間に会えるからではないかと、ゆっくり話していました。「時間が経って変わっていくことは決して悪いことではなくて、どういうふうに過ごして

戻ってきたかった大槌

高校を卒業してから、17年間仙台で過ごし、2010年11月に、大槌に帰ってきました。いづれ、また仙台に戻るつもりでいた矢先の震災。自宅は津波で流出し、祖父母、そして愛猫が犠牲になりました。「今思えば、最後の3カ月を自宅で過ごし、じいちゃん、ばあちゃんとも一緒に暮らせたし・・・もし、仙台にいたら、辞めて帰ってくる勇氣はなかったと思う。仕事

がここにあると思わなかったし、若い人もいないと思っていた。正直、大槌に残ると思っていなかった。でも、目の前で見ていたし、今も見ているから、今の生活があると思う。いつかは大槌に戻ってきたいと思っていたので、正直、私やることあるんだ・・・と思った」

復興事業に関わる岩間さんは、夜中まで働いていることもあるといいます。「好きでやっている仕事。だから、全然苦じゃない。やらなきゃ!と思っ



(文 一兜 育恵)

家族との信頼関係から生まれる商売の楽しさ



六串商店 六串夕子さん（25歳）

石内にある「六串商店」の店舗で販売を担当しています。大槌にある実家と工場は震災により被災しましたが、震災4日目に父の正悦さんが「再建しなければ」と泥や瓦礫でいっぱいになった工場を片付け始めました。「父がやる気があったので私たち家族もやる気になりました」六串さんは振り返ります。

体にしみ込んだプロ意識

「この仕事を始めて覚えたことはたくさんあります。イベントなどで県外へ行くことも多いし刺激になり勉強になります」現場でお客様の声を目の当たりにする六串さんは、時々値段や商品の見た目のことで家族に意見を言うこともあります。「父と値段のことで喧嘩しますよ（笑）」と笑う六串さん。六串商店は震災後、商品のラインナップを増やし積極的に県外へも出かけ、販路を拡げています。「焼きウニや塩ウニと一緒に乾物を買って頂くにはどうしたら良いか、などいつも考えています」

六串さんは小さい頃、細川流の踊りを習っていました。お祭りでは桜木町の手踊りにも参加していました。「震災後桜木町の

今年5月、釜石市駅前にあるサンフィッシュ釜石の中央玄関を入ると「いらっしやいませ〜！」と元気な声が聞こえてきました。

込みご飯やパスタにしても美味しいですよ！」とアドバイスをいただき、「へえ、ここにもこんな元気な若い女の子がいるのだ」と嬉しくなって帰宅したのを覚えています。

看板娘として

海草類や乾物、水産加工品が並ぶ店頭で、六串さんがあどけなさのまだ残る元気な笑顔で出迎えてくれました。お目当ての品は六串商店の看板商品「螺鈿の輝き」。アワビの殻にウニ、アワビ、ホタテ、昆布を盛りつけた、贅沢な一品です。「炊き

「いつの間にかサンフィッシュ釜石の『顔』になってしまいました」

六串さんはサンフィッシュ釜

石内にある「六串商店」の店舗で販売を担当しています。大槌にある実家と工場は震災により被災しましたが、震災4日目に父の正悦さんが「再建しなければ」と泥や瓦礫でいっぱいになった工場を片付け始めました。「父がやる気があったので私たち家族もやる気になりました」六串さんは振り返ります。

現場でお客様の声を目の当たりにする六串さんは、時々値段や商品の見た目のことで家族に意見を言うこともあります。「父と値段のことで喧嘩しますよ（笑）」と笑う六串さん。六串商店は震災後、商品のラインナップを増やし積極的に県外へも出かけ、販路を拡げています。「焼きウニや塩ウニと一緒に乾物を買って頂くにはどうしたら良いか、などいつも考えています」

六串商店
〒028-1122
上閉伊郡大槌町
桜木町 15-42
TEL: 0193-42-3296



（文） 駒林 奈穂子

の手踊りはお祭りに出なくなっ
てしまいました。今、復活させ
るために奮闘中です。やっぱり
お祭りには地域の出し物がない
と！（笑）「休みの日には買い
物へ出かけたり、同級生と遊び
に行ったりするそうです。
取材中、ご家族が顔を出すた
びハキハキと自分の考えを述べ
る彼女の姿に風通しの良い信頼
関係を感じ、それが店頭での気
持ちの良い対応を生み、サン
フィッシュの看板娘と言われる
所以なのだ、と暖かい気持ちに
なり取材先を後にしました。

MY FIRST LOVE OTSUCHI

金 沢



文・写真 Hana Ozawa

大槌町から内陸方面に位置する金沢。長閑な原風景の中を車を走らせると土坂峠があります。

土坂峠を越えて川井に抜ける金沢街道は標高765m。昔は馬では越せない急な坂道を人の背で荷物が運ばれてました。明治19年頃からは小国で養蚕が盛んとなり糸取のために大槌、安渡、金沢の娘達が土坂峠を越えて行き来し、そこから若い娘と小国の若者との恋が芽生えたそうです。

娘達がこの坂を越えてたので、「糸姫の道」とも呼ばれるようになりました。娘達が恋心を胸に秘めながらの峠越え。

この夏に私は土坂峠の姫虫に会いに行ってみました。姫虫が放す光が幻想的で異次元の世界に迷い込んだような風景に感動を覚えました。遠い昔、娘達が姫虫の光に癒されるときめく気持ちでこの峠を越えたのだらうと思うとロマンさえ感じました。

いつの頃からか土坂峠は「織姫ロード」と呼ばれるようになり、春には新緑が眩しく夏の夜には姫虫、秋にはキラキラ輝くような紅葉で癒されます。織姫ロードでときめく恋に出会えるかもしれませぬ。そんな願いを込めて神々しさを感じる金沢にて巫女さんで表現させて頂きました。

全国のTatsumitto。な取り組み



「農業女子プロジェクト」は、女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を様々な企業のシーズと結びつけ、新たな商品やサービス、情報を社会に広く発信していくためのプロジェクトです。

このプロジェクトを通して、農業内外の多様な企業・団体と連携し、農業で活躍する女性の姿を様々な切り口から情報発信することにより、社会全体での女性農業者の存在感を高め、併せて職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ります。

<http://nogyoyoujoshi.jp/>

Tatsumitto。／たつととな人

立ちあがろうとしている人（立人）

思いを達成するために走り出している人（達人）

何かをしようと動きだし一生懸命な人（発人）

その汗が一筋の雫となり、平坦な水面に「たつと・・・」滴り、波紋広がっていく様子を思い浮かべます。

今回紹介した二人は、日常のさりげない中にかわいい・すてき・たのしいなど彼女たちのセンス良さを發揮し、プロとして仕事をする姿はまるでオードリー・ヘップバーンのようです。オードリーは、「私の最大の願望は、いわゆるキャリアウーマンにならずに、キャリアを築くことです。」と名言を残しています。

大槌の女性達は、きらりと光るセンスの雫を仕事にもプライベートにも数滴くわえ、日々きらきらと輝くTatsumittoな人達なのです。

事務局 元持幸子

※「たつと」は大槌の方言 水滴を一滴垂らす 滴り落ちる様子を表す擬音語